

風土記の丘の花だより³³¹

今、そしてこれから見られる植物(2026年7月25日)

各地から「酷暑日」のニュースが届いています。40℃、恐ろしい数字ですね。和歌山はそこまではいかなくとも、30℃を超える日が続いていて、私たちには危険な暑さであることに間違いありません。みなさん、くれぐれも熱中症には気を付けてくださいね。



谷村家の庭の北西隅などでナツフジが咲いています。春に咲くフジよりもはるかに小さく、色も薄黄色で、全く異なります。写真はまだ咲き始めで、花数はすくないですが、これから花数が増え、小さいながらも房になっていきます。昔は、「時期を違えて咲く藤」という意味で「時じき藤」と呼ばれていました。「我がやどの 時じき藤の めづらしく 今も見てしか 妹(いも)が 笑(え)まひを」という歌が万葉集に残されています。



クサギの花です。「臭い木」という名前ですが、花は独特な香りはしますが、悪臭ではないように思います。その香りに誘われて大型のアゲハチョウの仲間が集まります。その中でひととききれいな虹色に輝くのがカラスアゲハです。ぜひ見つけてください。花とともに虫を観察するのもいいものですよ。クサギは少し前の古い図鑑ではクマツヅラ科になっていますが、今はシソ科に分類されています。秋に青く熟す実は赤い萼(がく)に包まれてとても可愛いので、それも楽しみにしておいてください。



谷山家住宅の庭でミソハギが咲き始めました。真夏の花です。去年は渇水でほぼ全滅しましたが、今年は新たに種をまき、水の管理もきちんとしていただいたので、たくさんの花が見られそうです。ミソは味噌ではなく、お盆にこの花を飾る地域があり、これで供物などを清め、花がハギに似ているので「襷ぎ萩・みそぎはぎ」、それが詰まって「ミソハギ」になったそうです。写真は上のナツフジと同じくまだ咲きはじめですが、これから花が増えて、もっと縦に長くなります。



柳川家住宅を左に見ながら坂を上っていく途中、左側の生け垣から眺めると、メハジキが咲いています。(かなり見つけにくいかも・・・) 草丈は60センチほどありますが、花が小さいので全く目立ちません。名前の由来は、昔の子どもが目目を大きく見開く遊びに用いたからといいますが、かなり大昔の子どものようで、私にはそんな思い出はありません。今や、そんな遊びをしようにも、郊外にいないと見られない草になってしまいました。 松下